

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270200161		
法人名	株式会社菱南		
事業所名	ケアビレッジ下田 2F磯の香		
所在地	静岡県下田市五丁目6番58号		
自己評価作成日	平成23年9月19日	評価結果市町村受理日	平成23年11月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 aigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2270200161&SC

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階		
訪問調査日	平成23年10月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①当ホームは自然に囲まれているためその特性を活かし、屋外に自由に出入りできる家庭菜園を設置し、季節の野菜を収穫しています。また窓から見える場所には四季折々の花を植え、ホームの中からでも窓の外を眺めれば季節を感じられるように配慮しています。②外出支援にも力を入れ積極的に地域への行事やイベントに参加し、地域との交流を深めています。③ホーム内では利用者の個人ケアを重視し、月に1回個別のケアカンファレンスを聞き話し合いを行っています。④以前指摘されたレクリエーション活動も充実し、週2回曜日を決めてアクティビティケアに取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

海や川を眺望できる高台に位置し、季節の色合いを木々や風で十二分に感じられる場所に事業所はある。昨年の課題であった「理念共有の明確化」についても職員同士真摯に向き合っており、業務の質を高め合う風土を確認できた。長年人事制度の改良に取り組み、職員のチームワークも年々深まるなか、定着率が高まっている。そのため、生活援助業務のほかへマンパワーを配分できるようになっている。また、法人も緊急時を踏まえ手厚い人員配置をしている。下田市は観光地であり季節折々の行事があるため、前述のようなバックボーンを活かし、年間事業計画は40件近く、月間も10件余りの行事に取り組み、本年は主に外出支援が充実していることが利用者の元気な様子からも視認できた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 ケアビレッジ下田 2F磯の香	理念を共有する為、新人職員には入社時に理念を説明し理解した上で業務に取り組んでもらい、全職員にも、日頃から理念を意識しながら取り組めるよう呼びかけ、理念について定期的に話し合いを行っている。	(定着率が高いため本年は1名のみであるが) 新入職員にも理解の機会を設け、またユニット会議で定期的に話し合い、全職員の理解を深めている。職員の声掛けには親しみとともに配慮が感じられ、理念の実践も視認できた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加し、寄付や交流を行うなど、地域との関係づくりに努めている	消防団やお祭り、花火など行事への寄附を行うとともに、利用者と一緒に地域活動へ参加している。一方、事業所の行事にはよさこいや音楽バンドが毎年参加してくれる。また、子どものフラダンスなどのレクボランティアの訪問も定期にある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についての研修等で出会った地域の方と情報を共有し、お互いが力になれるよう情報の交換を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た課題などはホーム内のユニット会議で報告し話し合いを行っている	運営推進会議は平日昼間に開催し、利用者、利用者家族、地域の代表者、市職員、施設代表などが参加している。運営推進会議を通して、認知症に対する理解やケア方法を地域に周知する機会につながっている。	年間に数多の行事に取り組んでいることもあり、いくつかの行事の中から選び、運営推進会議と併せて行うことで、参加者を増やすことも検討いただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険更新時や運営推進会議の時など情報を交換し、協力関係を築くよう努力している	行政の担当者には2ヶ月に1度の運営推進会議には必ず参加してもらっている。事業所側も市の開催する事業には努めて参加し、顔合わせの機会を作っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の人数が多い時間帯は開錠し、立地条件上夜間のみ玄関等の施錠をしている	特別な場合を除いて施錠はしていない。市や業界団体が開催する研修にも年数回参加している。やむを得ず取り組む場合に求められる書面の備えもある。何より、そのような心配のいない職員の対応がここにはある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新人職員には入職時に虐待についての研修を行い、全職員には日頃から会議の時など虐待についての話し合いを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在該当者がいる為、関係者と話し合いを密に行い制度の理解を深めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には家族、本人と面談を行い管理者より不安にならないよう十分に説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や面会時や手紙などで意見が反映できるような機会を設けている	毎月担当職員が家族へ手書きの書面を送っている。日頃の様子が綴られた心温まる書面の末尾には「何かあったらお知らせください」と入り、何かあれば連絡したいという気にさせている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日頃から職員との関係を密にし意見を聞くよう心がけている、必要に応じて管理者から代表に報告や相談をしている	毎月の会議では備品についてなど運営について具体的な改善意見がでている。また、管理者が現場のシフトに入り直接話をすることで意見を聞きやすくなっている。	個人における年間の目標設定や指針をつくり、年に1~2回の個人面談も検討されることを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員から意見を聴取した管理者は、代表者に職員の状況を伝えている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来るだけ大きい職員が研修等に参加できるよう配慮し勤務などの調整を行っている、又職員から希望された場合も参加できるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者同士の合同研修会を開き、交流を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に家族や本人から情報収集し、不安を取り除くようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	信頼関係を深めるために、事前に家族や本人から情報収集し不安を取り除くようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約前に得た情報によりホームのサービス内容を伝え、本人と家族に話をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族的な雰囲気の中で信頼関係をもち、共に支えあっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時以外で、本人の状態などに変化が見られた際、すぐにその状況を家族に報告し協力をいただいている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が使い慣れた馴染みの物を揃え、落ち着ける空間作りを行なっている	お盆やお正月などの行事はご自宅に戻り、家族と一緒に過ごせるように送迎したり、家族に依頼している。馴染みの美容師に利用継続するための支援や、友人知人の面会も受け入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士がふれあいを持てるように、フロアの座席の配置換えの見直しを定期的に行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族と電話で連絡をしたり、ボランティア活動で退所された利用者の家族が訪問されている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望、意向などに添えるよう話を聞き、把握している	現在できること、私の想いなどを横軸、ADLを縦軸にモニタリングシートを独自に作成し、職員がアセスメントに取り組みやすくなっている。職員が把握できるため、実践しやすく課題解決にもつながっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人と家族に情報を収集している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の1日の過ごし方を把握し、個別に対応している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時には家族や本人から意向を確認し、3ヶ月おきに見直しを行い作成している、又モニタリングは担当制にし、3ヶ月に一回実施、再アセスメントは6ヶ月に一回実施している	プランについてはカンファレンスをユニット毎に行い、アセスメントとモニタリングについては担当職員と計画作成担当が検討している。独自に制作したアセスメント・モニタリングの書式があり、職員が把握しやすい仕組みが構築されていることが視認できた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人一人の状態を個別に記録し把握している、問題点があれば話し合いを設け、介護計画の作成に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に応じて出来る限り、必要とされる支援は協力し行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの出来ることを考えた上で、地域資源を把握し、支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時は家族・本人に確認の上、主治医と連絡をとっている。事業所の協力医が主治医の場合は必要に応じて医師へ情報書を持参、情報は個人ファイルに記載して双方で情報を共有している	本人・家族同意の上、協力医に受診する利用者が多い。受診の同行は原則として家族に依頼しているが、家族が同行出来ないため職員と一緒にいくことも多い。訪問診療が月1回あり、診療の結果は職員間で回覧している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護師は配置されていません		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も病院へ面会に行き、本人の状況を確認し、医療担当者からも様子を伺い、本人や病院に必要な対応を行うようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族に看取りの意思を確認し、出来る限り要望に沿った終末期を迎えられるよう整えているが、現在は医療行為が必要な場合は取り組みが難しいことを事前に説明し理解を求めている。看取りについては看護職員の確保に努めている。	出来る限り家族の希望に応えたいと考えているが、終末期には医療等が必要な事が多いため医療機関や入所施設を紹介することが多い。現在看護師職員を募集しており、確保後には看取りについて再構築する予定でいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普段からマニュアルを作成し職員に落ち着いて対応できるように体制を整えている。定期的に消防署に出向き応急手当などの講習を受け実践力を身に付けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害計画を作成し年に2回、一般防災訓練を行い、職員全体が避難方法などを身につけるよう対策をとっている。地域住民や入居者の家族にも防災訓練の参加を呼びかけている	今年度は地元からの参加も得て訓練を開催している。県主催の防災研修会にも参加し、また地域の防災訓練への参加も12月に予定している。水や食料などの備蓄もさらに増やし、災害時に対する準備を進めている。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対し、年長者として心得たうえで言葉遣いに注意をはらっている	プライバシー保護のため、利用者の居室が廊下から見られないように扉を閉めておいたり、浴室更衣室の入り口が外から見られないようにカーテンを設置したりしている。排泄誘導の際にはさりげなく声掛けしている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定では本人の思いや希望を尊重し、意思を大切にしている	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意向に沿いながら、寄り添ったケアの提供をおこなっている	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院に出かけたり、ホーム内で散髪を行ったり、希望に応じて職員が髪染めなどの要望に応じている	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ユニットごとに異なった食事を提供している。家族や近所の方からもらった季節の食材などを利用し、季節感のあるメニューを考え、出来る方には一緒に調理など手伝ってもらっている	ごく普通の家庭の雰囲気の中、職員が間に入り、同じメニューと一緒に食している。テーブルの上にはさりげなく生花が飾られ、職員の細やかな配慮が見て取れる。利用者も調理や下膳などできることをおこなっている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合った栄養、水分摂取方法などそれぞれの摂取方法(刻み食やとろみをつけるなど)を行い、その方に合ったものを提供しています	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、うがいのできない人はガーゼで汚れや臭いが生じないよう個々に合わせた介助を行っている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を確認しながら排泄パターンを把握し、その人にあった方法で、出来る限り排泄できるよう促している	車いすの利用者でも出来るだけトイレで排泄できるように職員が誘導している。排泄の時間や状態に応じてリハビリパンツやパットを使い分けることにより、蒸れたり不快な思いをしない状態が保てている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝牛乳やヨーグルトを出したり、食事内容の工夫や軽い運動を促している、また排泄表により、排便の有無を確認し、それに応じて下剤での調聖も行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前に声かけによる意思確認を行い、本人の希望に応じた入浴方法をとっています	毎日入浴できるため、入浴の意思を確認する声掛けをしている。浴槽の一部が開閉でき、浴槽をまたがずに入浴することができる。浴室にもヒーターが設置されているので、冬場でも安心して入浴できる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室ソファでいつでも休息できるよう環境を整え、自ら休息を取れない方には介助にて1日一回は休息を取れるよう促している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は職員一人一人がすぐに確認できるようファイルに個別にまとめ、変更時などは管理者より申し送りがあり、情報を共有している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の趣味などを把握した上でレクリエーションを行い、楽しみを作るようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の声を聴き、それに添えるよう外出支援にも力を入れている。地域のイベントや行事にも参加し、ふれあいの機会を大切にしている	日常的な散歩については事業所の前が坂のため、車で散歩コースへ出掛けている。花見などの外出支援については、フリーで動ける職員を増員し、ボランティアにも手伝ってもらっている。出掛けた際の写真撮影は家族にも好評で、焼き増しのリクエストがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて金銭を渡し、個人で管理してもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話を取りつなぎ、手紙やはがきなどの代行なども行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は季節の花を飾ったり、観葉植物なども置いている。展示物で季節感を出すよう工夫している、刺激や混乱を防ぐようフロア内は自然灯を使用し温度調整もこまめに行っている	よく手入れされた観葉植物や細部への清掃状況などから日頃の環境への気遣いが感じられる。今年度、利用者からの希望でトイレに扇風機を設置し、夏季でも排泄しやすい環境が実現できた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内にソファや椅子を多めに設置し自由にくつろげるよう整えている。また、座席の位置も気の合う人同士で食事が出来るよう調整している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望を取り入れ馴染みの家具などを持ち込めるよう家族に協力してもらっている。家具などを居室に置いて本人にとって居心地の良い空間作りを行っている	掃除については利用者の出来る範囲で職員と一緒に毎日おこなっている。居室内にはコタツやテーブル、卓上ライトなどが持ち込まれたり、カーベットを敷いてあったり寛げる空間が実現されていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はユニバーサルデザインを取り入れ、状態に応じてリフォームを行うなど安全を重視した環境づくりをしている		